

## 企画運営委員会議事録（平成17年1月19日10:00～11:45）

### （1）エコちゃんカードの抽選について

応募状況について

- ・応募数は賞品への抽選の応募、直島町みどり創生基金の寄付をあわせて、50,201通となった。今年はスタンプ10個での応募であったため、20個での応募に換算すると、昨年より約4,000通下回る結果となった。（昨年はスタンプ20個での応募で27,100通）

抽選

- ・1等100名について、関会長、各委員が実施。
- ・残りは、事務局において別途実施。

### （2）平成17年度協議会事業計画（案）について

#### 環境にやさしい買い物キャンペーン

キャンペーンだが、10月だけというのではなく、6月の環境月間に併せて啓発活動をスタートできないか。また、買い物袋持参デーも10月5日だけではなく、毎月5日ということで取り組めないか。（マルヨシセンター）

毎月5日を買い物袋持参デーにすることは、こちらからもお願いしたいくらいですが、事業者側の負担増が懸念される。（事務局）

- ・毎月5日に決めた場合、他の事業者は実施できそうか？（関会長）
  - ・スタンプ制などは本社が決めて全店舗実施をしている。毎月5日ということも、店舗による個別決定は難しい。（高松サティ）
  - ・スタンプ制を導入していないので、まずはそこをクリアしてからの話になる。（マルナカ）
  - ・毎月5日に設定すると、回数が増える。呼びかける機会も増えPRもたくさんでき買い物袋持参率もアップするのではないか。（県消団連）
  - ・事業者の負担が少なければ実施できるといい。店内放送を流すなどはできるのではないか。（関会長）
  - ・どういう手法をとるにせよ、毎月5日は買い物袋持参デーということを統一的に周知していく必要がある。（マルヨシセンター）
  - ・ポスター等も、キャンペーン期間に絞ったものではなく、毎月5日は・・・という書き方を。（事務局）
  - ・協議会として毎月5日を買い物袋持参デーとして取り組むことにします。（会長）

グリーンコンシューマー運動が、いまいちマスコミで取り上げられないという現状をどう考えるか。打開策はあるか。（マルヨシセンター）

- ・マスコミが飛びつくのは新しい事業。継続の事業などニュース性の薄いものは、なかなか記事に取上げてもらえないのが現状。ただ、6月の再生紙100%のトイレットペーパーを買おうキャンペーンなどは、広聴広報課にお願いし、新聞社5社に広告を出せた。10月のキャンペーン時期は、他課のイベント等と重なり、なかなか取上げてくれない。今後は、広報の時期も考えていきたい。（事務局）

**結論**：事務局の案どおり実施。

キャンペーンの方法、啓発方法については、今回の意見を踏まえて検討する。

## レジ袋を減らそうキャンペーン2005

予算の都合上、賞品をどんどん提供できる時代ではなくなっている。今後は、事業者提供分のみを賞品として、社会貢献の色合いを強めていきたいと考えている。どうだろうか。また、今年度は、社会貢献として、直島のみどり創生基金への寄付を行うが、17年度はどうか。(事務局)

- ・毎月5日に、社会貢献をするということではできないか。店に、「レジ袋はいりません。円を寄付します」というようなカードを配布し、事業者はそのカードを集計して寄付を行う。カードを作る費用はかかるとしても、恒久的に使える。エコちゃんカードを毎年たくさん印刷する経費よりは安くつくのでは。(GC高松)
- ・以前は、社会貢献策として、レジ袋を断った人に緑のシールを渡し、それを貼っていったら「木」の形になる、というようなことを行っていたが、現在は行っていない。社会貢献or自分に特典が還元という選択肢を取り入れたら、社会貢献の方を選ぶ人が圧倒的に少なく、現在は、直接消費者に還元する策をとっている。(サティ)
- ・先ほどのシールを渡すというような方法はどうか？事業者は負担が大きいのか？(関会長)  
年間を通じて実施するとした場合、自社のカードとコンセプトが変わらなくなる。めりはりをつけた方がいい。また、この資料には、実際にかかっている費用が書かれていないので十分には分からないが、レジ袋減らそうキャンペーンや、エコちゃんカードは、グリーンコンシューマー活動のシンボリックなものなので、やみくもに費用削減をするのはどうか。(マルヨシセンター)

社会貢献の策はどうか。例えば環境にやさしい買い物推進をしているNPOの活動資金の一部を助成する、というような使い道はどうか。(事務局)

もう1年、直島にしたらどうか。NPOといっても、環境系のところはたくさんあるし、選定するとしても根拠も明確でない。今年の実績をみて、もう1年は、直島への寄付をしてみてもどうだろうか。(消団連)

- ・グリーンコンシューマーの森、のようにはできないが、今回、約13万の寄付と考えると、260本の苗木を植えることができる。(事務局)
- ・色々と、変えては消費者も混乱しかねない。来年度は、もう1度直島への寄付をするので良いだろう。(関会長)

**結論**：17年度も今年度と同じく、賞品もしくは社会貢献を選ぶという方法で実施。

社会貢献策については、来年度も、直島町のみどりへの寄付で進める方向。

## 再生紙100%のトイレットペーパーを買おうキャンペーン

- ・ごくありふれた商品であるので、あえてキャンペーンを行う必要はない。(マルナカ)
- ・商品を代えて何か・・・考えたが、なかなか的が絞れない。費用対効果の面からも、廃止にしたい。(事務局)

**結論**：事業の終了

## 買い物袋持参デー事業

### 1. 調査方法の変更

- ・昨年度と今年度、消費者団体の会員の皆様のご協力を得て、調査を実施した。当初は、消費者団体の会員の方々に買い物袋の持参の現状を見ていただいて、この運動の必要性など地域活動に反映していただこうと考えてお願いをしてきた。しかし、従来の方法では、調査をしている消費者団体の方、調査店舗の事業者、調査をされる消費者3方から、クレームが出るなど問題が多かった。したがって、調査方法を従来の消費者団体の会員の方々にお願いするのではなく、事業者側にお願いすることとし、例えば、啓発グッズ等を渡して、その数を集計するなどに変更したい。(事務局)
- ・賛成。(マルナカ)
- ・具体的な方法だが、啓発グッズの場合、事前に必要個数を把握できないという問題がある。啓発グッズではなくて、レジでカウントしていただいて、後々委託料をお渡しするという方法はとれるか。カウントする事務負担はどうか。(事務局)
- ・啓発すべきは、買い物袋を持ってきていない人なので、買い物袋を持ってきた人に、啓発グッズを渡しても、さほど効果がないのではないか。カウントする事務はさほど手間でないと思うので実施可能だと思う。(マルナカ)
- ・エコちゃんカードを押して、自社のポイントカードを押して、そのうえにカウントするとなると、手間である。レジ担当に聞いてみる。(マルヨシセンター)

**結論**：事業者側で調査を実施

## 省エネラベルキャンペーン2005

- ・17年度は、夏と冬の2回に実施。ポスター等も年間を通じて使えるものを作成予定。(事務局)
- ・もっと啓発が必要である。(消団連)

## 研修会の開催

- ・消費者団体・グループ等主催研究会への支援については、今年度も要望がなかったため、終了し、職員が出向いて講座をする出前講座をより積極的に行いたい。(事務局)
- ・高松市としては、グリーンコンシューマーの啓発関係の研修プログラムのようなものはあるのか。(関会長)
  - 特にはない。(高松市)
  - 市のほうも積極的にこの活動を推進する役割を担っていただきたい。(関会長)
- ・出前講座の方が良い(消団連)
- ・新規として、地域住民対象の出前講座とあるが、地域住民はどう募るのか。(関会長)
  - 市町の広報誌に掲載するなどして、消団連の方や会員の方など、既に知識を持っている人以外にも普及啓発を図りたい。呼びかけの際には、消団連の方の協力も必要。

- ・出前講座などを、協力をしながら一緒に行いたい。( G C 高松)
- ・事業者の従業員に対する講座を行いたい。なんとかできないものか。( G C 高松)
  - 研修そのものの機会が少ない。難しい。( マルナカ)
- ・研修のプログラムの中に入れて欲しい。コープなどではやっているのでは。( 関会長)
- ・すぐ出来ることとしては、朝礼などの機会を利用する手があるが、根付くためにはもっと時間が必要。各人の時間の捻出が難しいのでは。( サティ)
- ・従業員はパートの人がほとんどなので、時間的に拘束するのが難しい。何かテキストのようなものがあればいいが。( マルヨシセンター)

**結論**：今後も市町や消団連、 G C 高松等とタイアップしながら積極的に実施する。テキストの作成については検討する。

### グリーンコンシューマー協働事業

- ・今後も協働して事業を実施していきたいが掘り起こしが難しい。( 事務局)
- ・今回、委託をした N P O については、成果を発表する機会を設けたらどうか。( 関会長)
  - 総会の時に発表してもらおう予定。( 事務局)
  - 総会ではなく、一般の人に見てもらってはどうか。( 関会長)
- ・自分のところのような小さな団体がお店と交渉したり、マスコミに P R しても相手にされない。県の方にもっとバックアップをして欲しい。( G C 高松)

**結論**：今後も継続。しっかりバックアップができるようにしたい。

### ストップ温暖化・グリーンコンシューマー推進員養成講座

- ・地域で活躍できる人づくりが必要ということで、京都の環境市民から講師を招き講座を開く。( 事務局)
- ・京都からわざわざ招く必要があるのか。( 関会長)
  - 県内の人材活用が望ましいが、県内で講師役ができるような人がなかなか見当たらない。( 事務局)
- ・一般公募で募集とは、具体的にどうするのか？( 関会長)
  - メディアを活用する。( 事務局)

**結論**：講座の内容を詰めていく必要がある。費用対効果の観点から再度検討する余地がある。

### その他

- ・エコちゃんの家族を作って欲しい。キャンペーンする際に華やかになる。( G C 高松)
- ・協議会で統一の買い物袋を作ろうかと考えている。どうか。また、作るとしたら、以前グリーンコンシューマーかがわが作製していたものと同じもので良いか。( 事務局)
  - ・従業員は、昼ごはんなどを店舗で買い物をすることがほとんど。従業員皆がその袋を購入し使っていると P R 効果があってよい。( マルナカ)
  - ・グリーンコンシューマーかがわで作っているものは、かさばるので使いづらい。移動が多い人は、持ち運べるものでないと不便。( 消団連)